

第7回 札幌ジャズオーディオ鑑賞会 報告

日時: 10月23日(土) 17:00~19:20 会場: MITUYA' CAFÉ 報告者 畔田俊彦

第1部 デジタル・オーディオの世界

ゲスト: オーディオショップ Reference 店長 日影館氏

札幌でのデジタル・オーディオの第一人者であり、中島公園でオーディオショップを営む日影館店長から最新のデジタル・オーディオ事情についてご説明頂きました。

まず iMac にインストールされている Amarra という再生ソフトの説明がありました。このソフトは iTunes の使いやすい操作インターフェースを生かして再生エンジンとして機能し、196kHz で 24bit という高性能再生を可能にしております。(もちろん音源は、対応するものを手に入れる必要があります。)

早速、10月25日発売予定の Net Audio(音元出版)という専門雑誌の付録サンプル音源を聞かせて頂きました。

試聴した内容は以下のとおり。

No	試聴音源	仕様
1	オルガン……スローテンポ	44.1kHz/16bit(CDの規格)
2	〃	196kHz/24bit(Amarra 起動)
3	室内楽(ピアノ、バイオリン)	44.1kHz/16bit(CDの規格)
4	〃	196kHz/24bit(Amarra 起動)
5	女性ボーカル(アカペラ)……ふるさと	44.1kHz/16bit(CDの規格)
6	〃	196kHz/24bit(Amarra 起動)
7	ジャズピアノトリオ(ピアノ・ベース・ドラムス)	44.1kHz/16bit(CDの規格)
8	〃	196kHz/24bit(Amarra 起動)

44.1kHz/16bit(CDの規格)と Amarra を起動し 196kHz/24bit で聴くと音の違いが明確に異なることが分かりました。残響音や空気感が見事に再生されることが確認できました。

この音源は、LINN Records や e-onkyo music、e-クリプトンなどのサイトからダウンロード可能とのこと。後で音源販売価格を尋ねると、なんとアルバムで3,000円程度。この値段で196kHz/24bitという超ハイ・クオリティで再生可能とはたいへん嬉しく感じました。今後、こうしたデジタル・オーディオが主流になっていくのではという気がしました。

また LINN Records からダウンロードしたクラシック音楽(リコーダー曲)を 88.2kHz/24bit と 196kHz/24bit で聞き比べを行いました。これは識別がたいへん難しく、判断ができませんでした。

続いてビートルズの Come Together を CD と 196kHz/24bit での再生を聞き比べを行いました。

またダウンロード音源で Amazing Grace(92kHz/24bit)を Amarra の有無で試聴し、また 88kHz/24bit のクラシックの合唱の音源を試聴しました。Amarra によって音が繊細にかつ豊かになることがよく分かりました。

最後に関井さんがライブハウス B-Flat で録音された音源を CD で再生し、それをパソコンに取込んだものを聞き比べて第1部を終了しました。





アンプの説明をする関井氏。

このアンプは1965年7月9日に製造されたアンプですが、現在のオーディオにも充分対応できるものであると説明を受けました。

何よりWesternがOEMで製造したMcIntoshというたいへん珍しいもの。たいへん貴重なアンプを聞かせて頂きました。

最初に1部で使用した関井さんの音源を作成したマシンで再生して、音の違いを確認しました。その後、デジタル・オーディオのセットを撤収し、関井さんのシステムに切り替えました。

今回使用するパワーアンプKS-19602は、1965年ウェスタンが録音スタジオやラジオ局用に発売したアンプで設計がウェスタンで製造がマッキントッシュという珍しいものでした。トランスにはマッキントッシュのロゴがしっかり印刷されており、ウェスタンが販売した最後のアンプとのことでした。

今回は、1972年11月25日に菅野沖彦氏の録音による(サブ)マスターテープの再生が行われました。

1.ローズルーム

北村英治(cl) 増田一郎(vib) 原田政長(b) 須永ひろし(ds)

* 2曲目を聞く前にスピーカーケーブルをベルデンの88760から8412(最新バージョン)に変更。

2.去年の夏の思い出

世良譲(p) 原田政長(b) 須永ひろし(ds)

3.ロゼッタ

北村英治(cl) 光井章夫(tp) 世良譲(p) 増田一郎(vib) 原田政長(b) 須永ひろし(ds)

4.バイ・バイ・ブラックバード

世良譲(p) ジェイク・ハナ・コンセプション(as) 猪俣猛(ds) 他

いずれの曲もたいへん軟らかく温かみのある音で、菅野氏の録音ポリシーが伝わってくる作品だったと思います。通常聴いているクラウンのアンプとは異なる音で、その耳障りはたいへん軟らかい盛り上がりを感じるものでした。また菅野さんの録音はTBMの録音よりも音の広がりがあるように感じました。

最後に、1977年11月に銀座で録音されたギターのエリック・クラプトンの弾き語り未加工のマスターテープを聞かせて頂きました。生々しいリアルな音が伝わってきました。普段聴く加工された音と違いたいへんシンプルでドライな音でした。

今年の関井さんのオーディオライブは今回で終了しましたが、来年もまた楽しみです。まだ未公開のテープがたくさんあるとのこと、たいへん楽しみです。また今回は神奈川県からの参加者もあり、たいへん感激いたしました。ご参加頂いた皆様、MITUYA 'CAFÉの皆さん、ご説明頂いた皆様、ありがとうございました。

* 補足: AmarraはMacOS専用のアプリケーションで、Windows用はないとのこと。

Amarra2.0 ~ 196kHz/24bitを再生可能 @79,800 AmarraMINI2.0 ~ 96kHz/16 or 24bitまで再生可能 @39,900